

問題10 次の(1)から(5)の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを、
1・2・3・4から一つ選びなさい。

(1)

「ルール」はなぜあるのでしょうか？

スポーツを理解するために最初に^{かくにん}確認しておきますが、スポーツは人間が楽しむためのもの、です。これが出発点です。決して「世の中に無ければならないモノ」でもなければ、生きるためにどうしても「必要なモノ」でもありませんが、楽しむためのモノであり、そのスポーツで楽しむ、ために「ルール」があるのです。

そして、ルールのもとで勝敗を競いますが、このことが楽しくないのであれば、スポーツをする価値はありません。

(高峰修『スポーツ教養入門』岩波書店による)

55 筆者の考えに合うのはどれか。

- 1 ルールのないスポーツにも価値がある。
- 2 ルールはスポーツで楽しむためのものだ。
- 3 スポーツはルールを理解してから始めるべきだ。
- 4 スポーツを通して、ルールの重要さが理解できる。

(2)

以下は、ある会社の社内文書である。

平成28年 1月12日	
社員各位	総務課長
暖房使用についてのお願い	
<p>本格的な冬を迎え、暖房の使用が増加しており、12月の電気代は前月に比べて約30%増となりました。節電のため、室内温度は22度以下に設定するとともに、使用していない場所の暖房を切ること、退社時の切り忘れをなくすことなどを徹底^{てっぺい}してください。</p> <p>また、服装で調整するなど各自で工夫し、暖房に頼りすぎないようにご協力をお願いいたします。</p>	

読
解

56 この文書を書いた、一番の目的は何か。

- 1 暖房の使用を減らす工夫について意見を求める。
- 2 暖房を使用せず、服装で調整することを求める。
- 3 暖房を無駄^{むだ}に使用しないことを求める。
- 4 暖房の温度を変更しないことを求める。

(3)

実は「やりたいことをやる」ためには、シンプルに間近の目標を達成していただくだけで十分だと思います。「いつか大きな仕事を成し^と遂げたい」と思っている、実際にそれがどんなものかはわかりようがないし、本当に自分が望んでいるものが何なのかもわかりません。

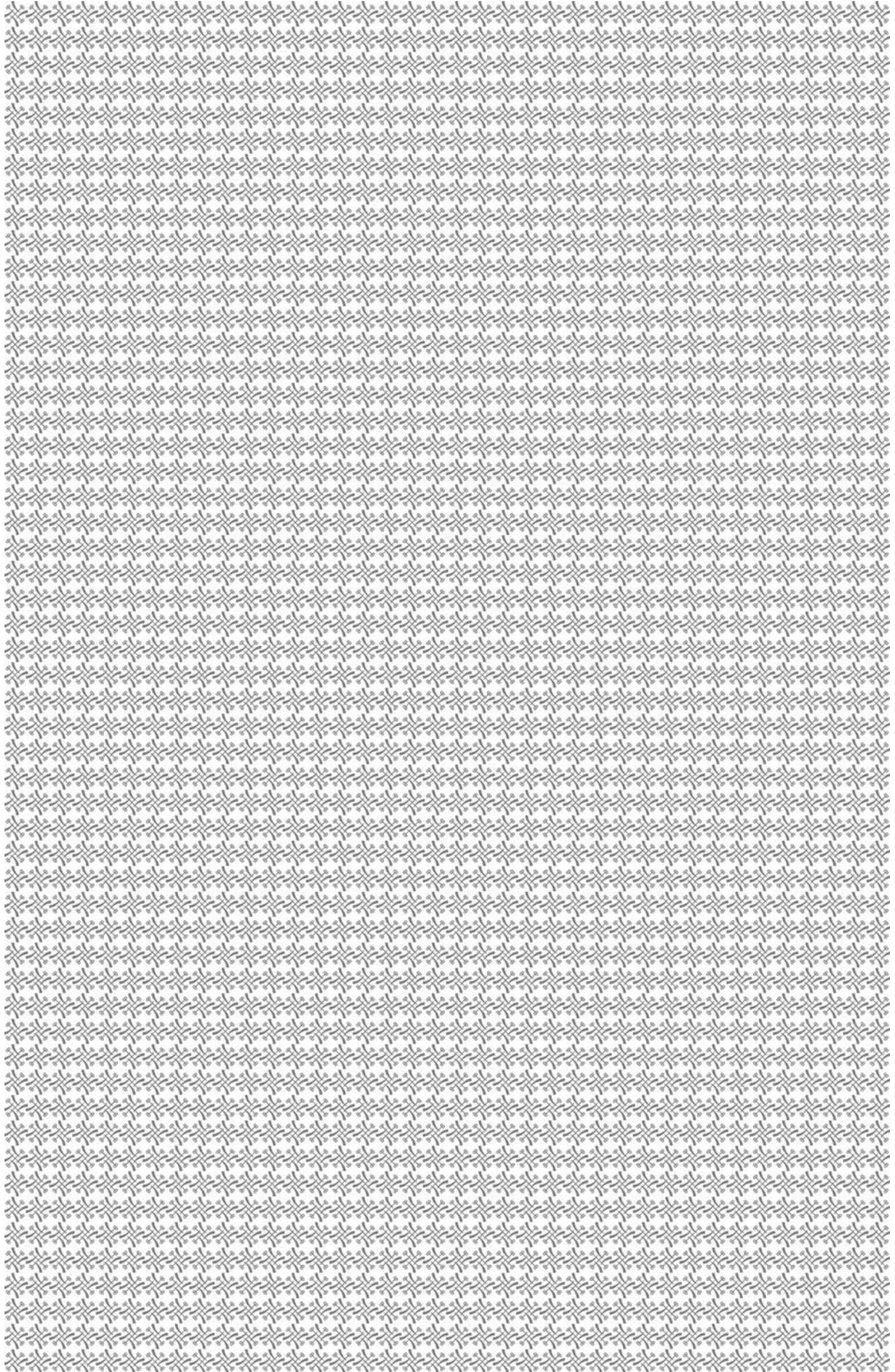
それより「目の前のやりたいこと」を見つけ、それに集中できるようなプログラムを組んでいけば、自然に「自分のやっていること」が「自分の望んでいること」に近づいていく可能性が高いような気がします。

(榊原英資『榊原式スピード思考力』幻冬舎による)

(注) 成し^と遂げる：達成する

57 筆者の考えに合うのはどれか。

- 1 「やりたいことをやる」には、大きな目標を立てることが大切だ。
- 2 「自分の望んでいること」を知れば、今何をすべきかがわかるようになる。
- 3 「自分のやっていること」が「自分の望んでいること」だと気づくことが大切だ。
- 4 「目の前のやりたいこと」を続ければ、それが「自分の望んでいること」になり得る。



(4)

以下は、コーヒー豆の販売会社から届いたはがきである。



189-6715

東京都橋谷市南 3-15-8-302

マリア・スミス 様

————— 割引フェアのご案内 —————

いつも「野田コーヒー」をご愛飲くださりまして、ありがとうございます。
コーヒー豆を定期購入こうにゅうされているお客様に、お得な割引フェアについてご案内いたします。

当社ではこの冬、新商品「冬の味わい」を発売します。定期購入こうにゅうをされているお客様には、この商品を15%割引の特別価格ていきょうでご提供いたします。購入こうにゅうを希望される方は、10月中にご予約ください。

なお、すでにご案内しておりますとおり、定期購入こうにゅうをされているお客様は、その他の全商品がいつでも10%割引でお求めいただけます。あわせてご利用ください。

商品の詳細・ご注文方法につきましては、裏面をご覧ください。

58 このはがきで紹介されている割引サービスについて正しいものはどれか。

- 1 コーヒー豆を定期購入^{こうにゅう}している人は、10月中だけ「冬の味わい」を10%割引で買うことができる。
- 2 コーヒー豆を定期購入^{こうにゅう}している人が10月中に「冬の味わい」を予約すれば、15%割引で買うことができる。
- 3 「冬の味わい」を10月中に予約すれば、その他の商品をすべて15%割引で買うことができる。
- 4 「冬の味わい」を買った人は、10月中だけその他の商品をすべて10%割引で買うことができる。

(5)

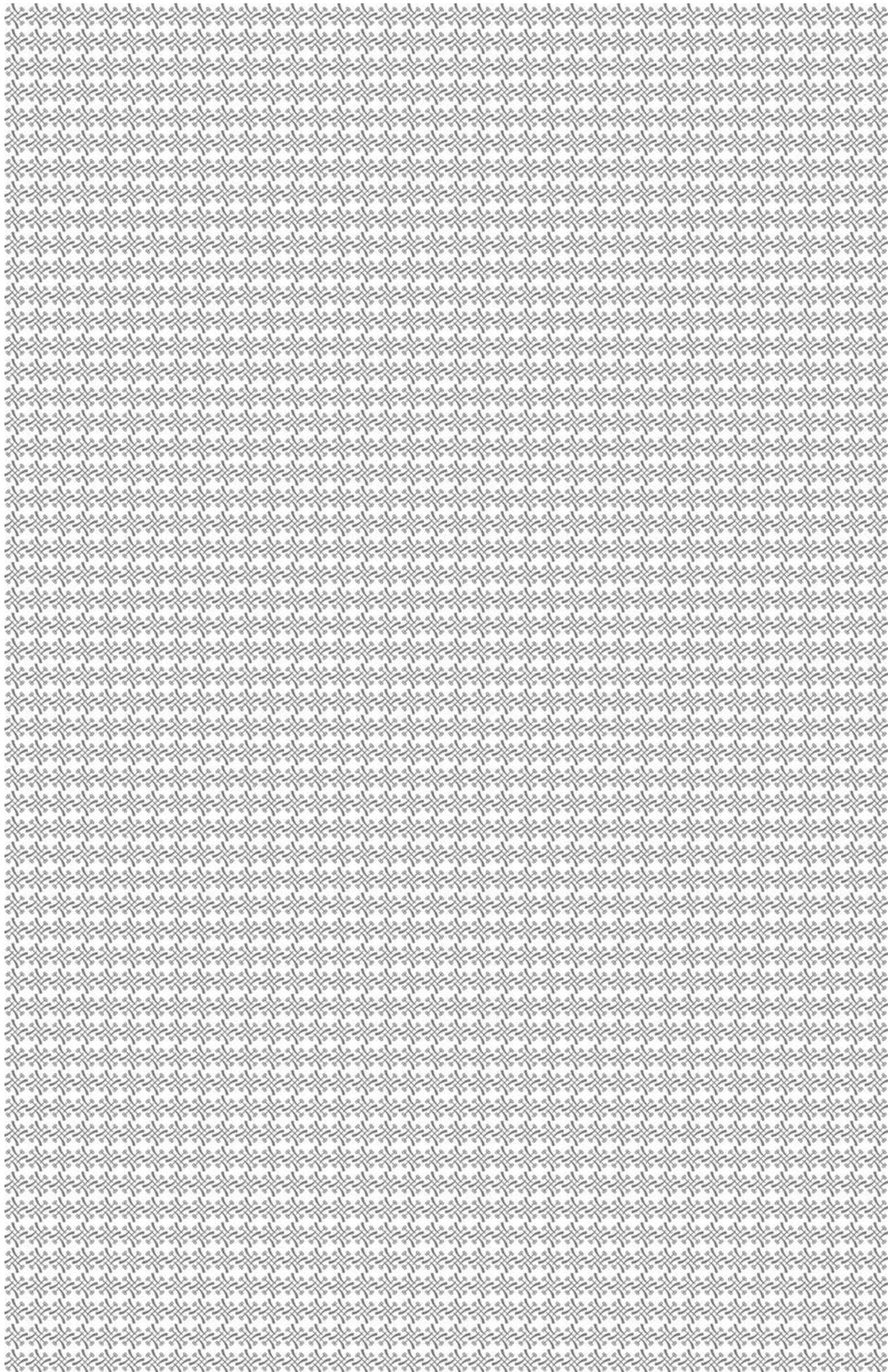
どういう日が「いい一日」であるかは人によって異なるだろうが、日記を書き続けることで、自分にとっての「いい一日」というものの構成要件(注)がわかってくる。どうすれば「いい一日」になるかがわかってくるということだ。そうなれば「いい一日」がたまたま訪れるのをただ待つのではなく、「今日」が「いい一日」になるように、「今日はいい一日だった」と日記に書けるように、主体的に行動するようになるだろう。

(大久保孝治『日常生活の探究—ライフスタイルの社会学』左右社による)

(注) 構成要件：構成するのに必要な条件

59 筆者によると、日記を書き続けるとどうなるか。

- 1 毎日を「いい一日」にしようとするようになる。
- 2 毎日が「いい一日」だと思えるようになる。
- 3 「いい一日」が訪れるのを楽しみにするようになる。
- 4 「いい一日」をいつまでも忘れないようになる。



60 日本人が使う「個性」という言葉について、筆者はどのように述べているか。

- 1 本来の意味とは違う使い方がされている。
- 2 意味がないと思っている人が多い。
- 3 主に若者に対して使われている。
- 4 人によって使い方がさまざまだ。

61 個性について、筆者の考えに合うものはどれか。

- 1 他人には理解できないものである。
- 2 人より目立つことで発揮^{はつき}できるものである。
- 3 人間なら誰^{だれ}でも持っているものである。
- 4 ファッションを通して主張できるものである。

62 筆者によると、本当の意味で「個性を磨く^{みが}」とはどのようなことか。

- 1 自分の心に従って、関心があることを追い求めること
- 2 自分が好きかどうかより、個性的に見られるかどうかを優先すること
- 3 周囲の意見を参考に、無理なく自分の世界を広げること
- 4 どんな物事にも、楽しさや面白さを見つける努力をすること

(2)

「話し言葉」の最も重要な特徴は、声を使うところにあるのではなく、聞き手が目の前にいるというところにあります。話し手と聞き手は、親しい関係の場合もあれば、初対面の人、行きずりの人の場合もありますが、少なくとも両者は、そこがどんな場所で、どんな状況(注1)であるかについて、一定の共通認識(注2)を持っています。同時に、相手がどういう人であるかについても、ある程度はわかります。

(中略)

ところが「書き言葉」になると、たとえ親しい相手への手紙でも、あちこちで説明が必要になります。自分しか読まないはずの覚え書きでも、時間がたつと書かれた状況(注3)がわからなくなりますから、「あとで読み返すかもしれない自分」への最低限の配慮(注3)はしておかなくてはなりません。説明するというのは、「自分には言葉にしなくてもわかっていること」を、わざわざ言葉にする作業ですから、とてもやっかいです。でも、そこがきちんとできていないと、誤解が生じて取り返しのつかない結果になることもありえます。面とむか(注5)った話なら、相手が気を悪くすれば急いで謝ることもできますが、手紙だと、怒らせたことに気づかないまま関係が切れる恐れすらあるのです。

ですから、「書き言葉」においては、文字の読み書きという知識に加えて、自分が書いたものを読む相手がどんな情報を必要としているかを推測(注6)する力、そして、その情報を、どんな言い方、どんな順序(注7)で提供すれば、わかってもらいやすく、誤解が生じにくいかを考える力が、いかに大きな意味を持つかがわかっているだけでいいと思います。

(協明子『読む力が未来をひらく—小学生への読書支援』岩波書店による)

(注1) 行きずりの人：たまたま出会った人

(注2) 認識(注2)：理解(注3) 配慮(注3)：気配り

(注4) 取り返しのつかない：もとに戻せず大変な

(注5) 面とむかって：対面して

(注6) 推測する(注6)：ここでは、想像する

(注7) いかに：どんなに

- 63** 筆者によると、「話し言葉」の重要な特徴とは何か。
- 1 話し手と聞き手が声を使って情報を共有するところ
 - 2 話し手と聞き手の関係が多様であるところ
 - 3 話し手が聞き手との親しさによって表現を使い分けるところ
 - 4 話し手が聞き手と場面を共有するところ
- 64** 誤解が生じてとあるが、どのような時に誤解が生じるのか。
- 1 読み手に必要な情報を十分に説明していない時
 - 2 読み手が理解していることを再び説明してしまった時
 - 3 自分のために書いたものを相手に送ってしまった時
 - 4 気を悪くした相手にきちんと謝らなかった時
- 65** 「書き言葉」について、筆者の考えに合うのはどれか。
- 1 相手がどのような情報を必要としているのかを調べるのが大切だ。
 - 2 何をどのように書けば相手が理解できるかを考えるのが大切だ。
 - 3 言い方や順序よりも文字と言葉の正確さを優先させたほうがいい。
 - 4 読み書きの知識よりも書く内容を重視したほうがいい。

(3)

従来^(注1)、旅行業にとって顧客^(注2)を喜ばせることは難しくなかった。自分の行ったことがないところに行きたい、見たことがないものを見たい、食べたことのないものを食べたいというのが主なニーズであったし、長い休みの存在自体が旅行の動機になり得たからだ。だから参加者の多くは、そこに行って、そこそこの観光^(注3)ができれば、十分に満足した。旅行会社は、価格を抑えるために人々を大量に効率^(注4)良く送客すればよかった。北海道や沖縄^(注5)、グアムやハワイ、アジアのリゾート地……場所の魅力^(注6)を繰り返し伝えて刺激し続ければそれでよかった。

しかし、そうして多くの人々がさまざまな場所に出掛けるようになると、今度はただ行くだけでは満足しなくなる。目的が必要になる。行ってどうするのか、何ができるのかという目的が重要になる。(中略)

この流れは現在も続いており、旅の動機づけとしては重要な視点となっている。ただ、残念ながらそういうことをマス^(注5)としてとらえることが、価値観の多様化のなかで難しくなっている。個々の目的を一つに束ねてマスの企画にすることが難しいのだ。ブームが発生しづらくなっている状況^(注6)と原因は同じであろう。

(近藤康生『なぜ、人は旅に出るのか』ダイヤモンド社による)

(注1) 従来^(注1)：これまで

(注2) 顧客^(注2)：客

(注3) そこそこの：まあまあの

(注4) 効率^(注4)良く：ここでは、経費や時間をかけずに

(注5) マス：集団

66 筆者によると、これまでの旅はどのようなものだったか。

- 1 高くても遠い場所でのんびり過ごせばよかった。
- 2 経験したことのないことができればよかった。
- 3 気に入った場所に繰り返し行ければよかった。
- 4 近くて安い場所に短期間行ければよかった。

67 筆者によると、客は旅で何を重視するようになってきたか。

- 1 一回の旅行でさまざまな場所へ行けるかどうか
- 2 観光するだけで満足できるかどうか
- 3 行ってしたいことができるかどうか
- 4 新しい場所へ行けるかどうか

68 筆者によると、旅行会社が難しいと感じている点は何か。

- 1 個々のニーズに合った団体旅行を考え出すこと
- 2 魅力みりょくを感じてもらえる場所を探し続けること
- 3 旅行に行こうという気持ちにさせること
- 4 価格おさを抑えた団体旅行を企画すること

問題12 次のAとBの文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを、

1・2・3・4から一つ選びなさい。

A

公立の図書館では、利用者へのサービス向上のために、人気の高い本を複数冊置くことが増えている。本が複数冊あれば、同時に多くの利用者に貸し出せて、予約待ちの期間も短くできる。

このような図書館の姿勢に対して、予算は限られているのだから買える本の種類が少なくなってしまうのではないかと心配する声もある。しかし、借りたい本がなかなか借りられない図書館では利用者は満足しないだろう。公立の図書館は、多くの人々に読書のきっかけを与え、本を読む楽しさや喜びを感じてもらおうようにする役割を持っている。図書館に同じ本を複数冊置くことは、その役割を果たすための一つの方法だといえる。

B

最近公立の図書館では人気の高い本を複数購入^{こうにゅう}しているそうだ。有名な作家の小説などが対象らしい。流行の本を早く読みたいという利用者の希望に応えようとする図書館の気持ちは理解できる。しかし、どうしても早く読みたければ自分で買えばいいのだから、図書館がそのために多くの予算を使う必要はない。

税金で運営されている公立図書館の存在意義は、学問的に価値のある本や手に入りやすい本など、さまざまな種類の本を一冊でも多くそろえていることだ。書店にない本でも図書館に行けば読めるというのが本来の姿だろう。同じ本を多く買うことによってその役割が果たせなくなったら、利用者に対するサービスの低下につながるといえる。

69 公立図書館が人気のある本を複数冊置くことについて、AとBはどのように述べているか。

- 1 AもBも、利用者の希望を重視しすぎていると述べている。
- 2 AもBも、利用者へのサービス向上につながると述べている。
- 3 Aは予算が足りなくなると述べ、Bは図書館の存在意義が失われると述べている。
- 4 Aは利用者の満足度が高くなると述べ、Bは予算の使い方として適切でないと述べている。

70 公立図書館の役割について、AとBはどのように述べているか。

- 1 AもBも、利用者の教養を高めることだと述べている。
- 2 AもBも、読書が好きな人を増やすことだと述べている。
- 3 Aは利用者に読書に親しんでもらうことだと述べ、Bは貸し出す本の多様性を確保することだと述べている。
- 4 Aは利用者が読書を楽しめる環境を作ることだと述べ、Bは書店よりも新しい本をそろえることだと述べている。

問題13 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

以下は、あるデザイナーの書いた文章である。

私のアイデアのもとには、自分の生きてきた道の中にすべて詰まっているのだ、というふうに思っています。いままで生きてきた中で、感動したことを現代に持ち帰ってくる。過去の中で感動したことをコピーして、それをデザインしているのです。アイデアはいつも人から、時代からもらう。自分で考え出すことは少ないのです。

私は、感動したときのシーンはよく覚えています。色も匂いも形も光も季節も、そのときの景色も、そのときその場に誰がいたかも、何を食べたかも、思い出の中に鮮明に刻み込まれています。感動すると、それくらい記憶装置が自動的に働いて、すべてを映し込んでいるのです。

(中略)

中学の頃のこと、高校のあのとき、社会人になったときのこと、妻と旅をしたときの情景などいろいろなシーンが思い出されて、それを遡って切り取りに行くわけです。

けれどもそれが、もやーっとしたものだ(注1)と切り取れない。なぜ、もやーっとするかと言えば、心の底から感動していないからです。しっかり感動していないと、持ち帰れないのです。

感動は、自分の力だけでなく、親の力だったり、友だちの力だったり、ほかの人の力によってもつくられています。子どものときから大事に育てられたとか、自分を包んでくれる街がきちっと大人たちによって美しく保たれていたとか、そういう周囲の力でつくられている場合もあるわけです。

そうした感動の思い出を大切に持ち帰ってきて、いまあるものとコラボレーションすると、新商品が生まれます。そういう意味では、まるっきりの新商品なんてあり得ません。(注2)
(注3) アイデアはいつも、そんな過去の「感動の森」の中から探し出してくるものなのです。

いい思い出がたくさんあるかどうか、いい人に会ったかどうか、美味しいものを食べたかどうか。そういうヒト・コト・モノとのよき思い出の引き出しをどれだけ持っているかによって、アイデアの湧き出る量(注4)は変わるのです。

(水戸岡鋭治『あと1%だけ、やってみよう—私の仕事哲学』集英社インターナショナルによる)

(注1) もやーっとした：はっきりしない

(注2) コラボレーションする：ここでは、組み合わせる

(注3) まるっきりの：全くの

(注4) 湧き出^わる：ここでは、生まれてくる

71 感動したことを現代に持ち帰ってくるとは、どのようなことか。

- 1 感動したシーンを人に語る。
- 2 感動した記憶をデザインに生かす。
- 3 過去に流行したデザインをコピーする。
- 4 人が感動したことからデザインのヒントをもらう。

72 感動について、筆者の考えに合うのはどれか。

- 1 感動は周囲の力でしかつくりられない。
- 2 感動したことは年を取るにつれて思い出せなくなる。
- 3 周囲の力でつくられた感動は記憶に残りやすい。
- 4 心の底から感動したことは鮮明な思い出となる。

73 アイディアについて、筆者はどのように考えているか。

- 1 記憶力が強いほど、アイディアが生まれやすくなる。
- 2 他人の力を上手に利用することで、アイディアが商品につながる。
- 3 感動した思い出が豊富であるほど、多くのアイディアが生まれる。
- 4 感動をヒト・コト・モノに分けて考えると、いいアイディアが生まれる。

問題14 右のページは、あるホテルのホームページに載^のっている案内である。下の問いに対する答えとして最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

74 ユンさんは、来週ミハマホテルのビュッフェに行きたいと考えている。金曜か土曜の12時から17時の間で、2時間いられるものがある。ユンさんの希望に合うビュッフェはどれか。

- 1 「ベルン」のランチビュッフェ
- 2 「ベルン」のデザートビュッフェ
- 3 「ベルン」の夕食ビュッフェ
- 4 「みよし」のランチビュッフェ

75 エンリケさんは、今度の土曜日に妻と一緒^{いっしょ}にレストラン「ベルン」の夕食ビュッフェに行き、「窓際特別テーブル」を利用したい。エンリケさんは63歳、妻は66歳である。エンリケさんたちの料金はどのようになるか。

- 1 エンリケさん6,000円、妻6,000円のみ
- 2 エンリケさん6,000円、妻6,000円、テーブル料金1,000円
- 3 エンリケさん6,000円、妻5,500円、テーブル料金1,000円
- 4 エンリケさん5,500円、妻5,000円、テーブル料金1,000円

ミハマホテル

ビュッフェのご案内

レストラン「ベルン」および「みよし」では、以下のビュッフェをご用意しております。
お好みの料理を食べ放題でお楽しみください。

ベルン (洋食)

◆ランチ	11:30～14:00	(制限時間90分)		
料金	(平日)	おとな 3,300円	シニア 3,000円	こども 1,700円
	(土日・祝日)	おとな 4,000円	シニア 3,700円	こども 2,000円
◆デザート	15:00～17:00	(制限時間60分)		
料金	(平日)	おとな 2,500円	シニア 2,200円	こども 1,500円
	(土日・祝日)	おとな 3,000円	シニア 2,700円	こども 1,800円
◆夕食	18:00～21:00	(制限時間 2 時間)		
料金	(平日)	おとな 5,500円	シニア 5,000円	こども 2,000円
	(土日・祝日)	おとな 6,000円	シニア 5,500円	こども 2,500円

“窓際特別テーブル”のご案内

レストラン「ベルン」では、海が見渡せる窓際の特別席をご用意しております。
最高の眺めとともにビュッフェをお楽しみください。ビュッフェ料金に、1テーブル
(2～4名様) 1,000円の追加料金でご利用いただけます。

みよし (和食)

◆ランチ	11:00～16:00	(制限時間 2 時間)		
	土日・祝日のみ			
料金	おとな 4,500円	シニア 4,200円	こども 2,200円	

※ビュッフェ料金の区分について (ベルン・みよし共通)

おとな…中学生から64歳までのお客様

シニア…65歳以上のお客様

こども…4歳から小学生までのお子様 (3歳以下のお子様は無料です。)

ご予約・お問い合わせ

ベルン 031-277-1116 (直通) / みよし 031-277-1119 (直通)